

4 学習指導の多様な展開

道徳科の学習指導を構想する際には、学級の実態、児童生徒の発達段階、指導の内容や意図、教材の特質、他の教育活動との関連などに応じて柔軟な発想をもつことが大切です。

1 多様な教材を生かした指導

道徳科では、道徳的な行為を題材とした教材を用いることが広く見られます。道徳科においても主たる教材として教科書を使用しなければならないことは言うまでもありませんが、道徳教育の特性に鑑みれば、地域に根差した地域教材など、多様な教材を合わせて活用することも重要です。それらの教材を学習指導で効果的に生かすには、登場人物の立場に立って自分との関わりで道徳的価値について理解したり、そのことを基にして自己を見つめたりすることが求められます。また、教材に対する感動を大事にする展開にしたり、道徳的価値を実現する上での迷いや葛藤を大切にしたりした展開、知見や気付きを得ることを重視した展開、批判的な見方を含めた展開にしたりするなどの学習指導過程や指導方法の工夫が求められます。その際、教材から読み取れる価値観を一方的に教え込んだり、登場人物の心情理解に偏ったりした授業展開とならないようにするとともに、児童が道徳的価値を自分との関わりで考えることができるように問題解決的な学習を積極的に導入することも効果的です。

地域の郷土料理にまつわる自作教材の開発

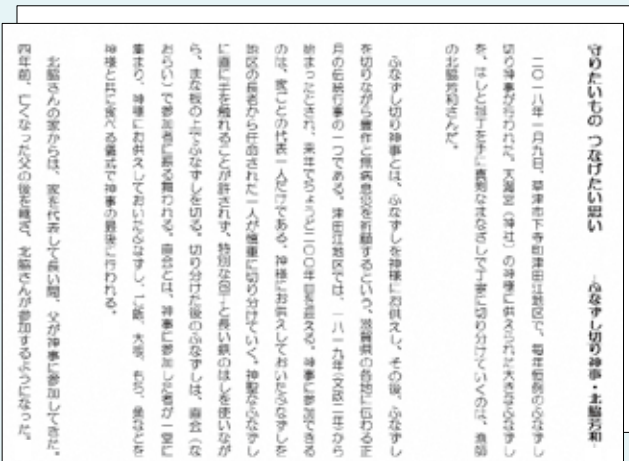
児童に道徳的価値を考えさせ、地域や人とのつながりの自覚を深めるきっかけとして、郷土や地域に関する教材を活用することは効果的である。

総合的な学習の時間に環境学習の一環で、地域の郷土料理「ふなずし」を学んでいる児童に、ふなずしにまつわる祭りの題材から、郷土の伝統と文化を大切にしている心について考えさせる自作教材を作成した。



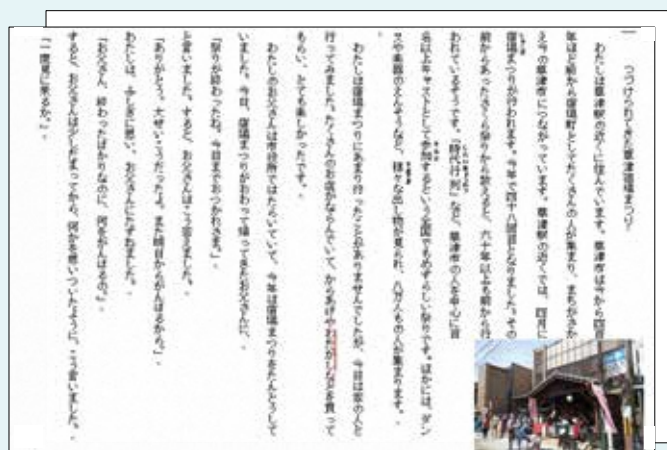
祭りには、どのような願いが込められているのだろう。

地域の祭りや文化を受け継いでいくために、どうすればよいだろう。



平成29・30年度推進校 渋川小学校5年「受け継がれてきた祭り」の実践

地域の祭りにまつわる自作教材の開発



平成27・28年度推進校 草津第二小学校3年「続けられてきた宿場祭り」の実践

宿場祭りは、前身の桜祭りから数えて60余年の歴史がある。草津市の観光物産協会の人によると、桜を見るために集まっていたことから祭りが起こったが、昨今では、年々祭りを支える人が減っていき、運営にも影響が出ている。祭りを支える人の苦労や伝統を守ろうとする願いを中心に、郷土の伝統と文化を大切にしている心について考えさせる自作教材を作成した。



地域の祭りや文化を受け継いでいくために、どうすればよいだろう。

2 体験の生かし方を工夫した指導

児童生徒は、学校の教育活動や日常生活において様々な体験をしています。その中で、様々な道徳的価値に触れ、自分との関わりで考えたり感じたりしています。道徳科においては、児童生徒が日常の体験やそのときの考え方や感じ方を生かして道徳的価値の理解を深めたり、自己を見つめたりする指導の工夫をすることが大切です。

特別支援学級における重点内容項目の系統的な指導

重点内容項目である「親切、思いやり」については、年間を通して指導を進めた。児童にとって身近な人が困っている時に相手のことを思いやった言葉や動作を心掛けられるように日頃から指導していきたいと考えた。一学期に「礼儀」の内容項目で学習をした絵本『どうぞのいす』、2学期初めに「親切、思いやり」の内容項目で学習をした絵本『ごろりん ごろん ごろろろろ』に続けて、「うさぎさん」シリーズの第三弾として、絵本『ぴよん ぴよん ぱんの かばんです』による指導を計画した。

主 題	教材名	ねらい
親切について考えようパート1 友だちがこけてしまっ大変そうな時 どんなことができるかな	「ともだちにやさしくいえるよ」 (出典：講談社「こどもせいかつ百科」)	友だちが困っているときは、進んで親切な言動をしようとする態度を育てる。
親切について考えようパート2 友だちが重いものを持って大変そうな時 友だちの様子をよく見よう	「ごろりん ごろん ごろろろろ」 (出典：ひさかたチャイルド)	大変な思いをしていることを自分のこととして想像し、進んで親切な行いをしようとする態度を育てる。
親切について考えようパート3 友だちに頼まれた時 友だちの気持ちを聞いてみよう (全2時間)	「ぴよん ぴよん ぱんの かばんです」 (出典：新日本出版社)	相手と自分で考え方や感じ方が違うことがあることに気付き、相手の求めることを進んで知り、親切にしようとする態度を育てる。

絵本『ぴよん ぴよん ぱんの かばんです』というお話は、相手に親切にするには、相手が何を考えているのか聞いたり察したりすることが必要だと感じることでできるエピソードが書かれている。本時では、うさぎがぞうに「どんなかばんが欲しいの？」と話をする場面を劇化することで、相手に聞いてみることで親切な行動につながることを実感できた。

1人では、自分の思いをまとめることを大変苦手とする児童が多いため、ペア学習により、自分の考えに自信を持ったり、友だちの考えを聞いて思考を深めたりできるようにした。

具体的には、進んで相手のことを知ろうとする態度を育てるためにうさぎの台詞を考えるようにしたり、状況を考えにくい児童のために、T2の劇を見てイメージを持てるようにしたりした。また、自分の意見を出しやすい場を作ったり、友だちの考えを聞いて理解を深めたりするためにペアでの話し合い活動を取り入れ、劇化につないだ。



日常生活につなぎ、自己を見つめる学習の工夫



毎時間の道徳の学習の足跡を教室に掲示

平成29・30年度推進校 渋川小学校特別支援学級の実践

3 各教科等と関連をもたせた指導

例えば、国語科における物語文の学習、社会科における郷土や地域の学習、体育科におけるチームワークを重視した学習、特別活動における集団形成の学習など、各教科等と道徳科の指導のねらいが同じ方向であるとき、学習の時期を考慮したり、相互に関連を図ったりして指導を進めると、指導の効果を一層高めることができます。その際、各教科等と道徳科それぞれの特質が生かされた関連となるように配慮することが大切です。


総合的な学習の時間と関連付けた指導の工夫

アフリカのウガンダでの「ネリカ米普及プロジェクト」に参加して、稲作技術を指導する技術を指導する坪井達史さんが、アフリカの気候や米作りに適した土地を探すなどの努力をして、多くの研究員・農業普及員、農民を指導し、米作りを広めたという内容の教材で、他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚を持って国際親善に努めることについて次の3つから多面的に考えさせられるようにした。

- ①米作りが我が国の伝統であり、坪井さんの誇りであること。
 - ②農業技術を教えることがアフリカの将来の経済的な発展につながり、人々の生活を助けられること。
 - ③自分たちもまた、世界の現代的な課題に目を向け、貧困や経済的な問題の解決に向けた自分たちなりの取り組みができること。
- ③では、他国の人々となつながら、国際親善のために自分たちにできることは何かを考えられるようにするために、総合的な学習の時間の学びを想起させながら学習できるように工夫した。

総合的な学習の時間

- 世界農業遺産学習
 - ・ 滋賀の農林水産業について知ろう
 - ・ 世界農業遺産について
 - ・ こだわり農業・ゆりかご水田米
 - ・ 琵琶湖の漁業
 - ・ 完全無農薬農業



総合的な学習の時間の学びの足跡を残し、教室に掲示することにより、いつでも想起できるよう学習環境を整備した。


外国に目を向けよう



道徳科


「米作りがアフリカを救う」

- 教材を読んで自分と関わらせて考える。
 - ・ 日本の米作りをアフリカに上げたい。
 - ・ アフリカの人々を助けたい。
 - ・ 農業でお金を得てほしい。
 - ・ 技術者を育てたい。
 - ・ 食糧不足をなくしたい。
- 国際親善について感じたことや自分たちができるところを考えよう。




総合的な学習の時間

- 生き方学習（キャリア教育）
 - ・ 青年海外協力隊（ケニア）の保護施設での活動の話
 - ・ タンザニアの児童とスカイプで交流
 - ・ 青年海外協力隊（タンザニア）の数学教師の話



自分の考えをワークシートに書いた後、自分の考えを広げるために3人組で話し合わせた。直接経験はあまり期待できないため見聞したことも間接経験として捉え、幅広い考えが出るように支援した。



平成29・30年度推進校 渋川小学校6年「米作りがアフリカを救う」の実践

各教科等での関連する指導内容を整理した教科等横断的なカリキュラム表を作成し、特に重点指導内容項目については、教職員が目にしやすい場所に掲示して総合的に指導を行えるようにすると意識が高まります。教育活動全体の中で道徳的価値の自覚を深め、道徳性を養えるよう、道徳教育を軸に学校全体のカリキュラムマネジメントを充実させることが大切です。

